

## エゴン・シーレ作品のカタログ・レゾネ

松田 幸久

### 要旨

エゴン・シーレ (Egon Schiele; 1890生-1918没) はオーストリア=ハンガリー二重帝国で活躍した20世紀初頭の表現主義の画家である。これまで複数のシーレ作品のカタログ・レゾネが作成されている。本稿は次のカタログ・レゾネを概説するものである。1) 1930年出版のOtto Nierensteinによる"Egon Schiele: Persönlichkeit und Werk", 2) 1966年出版のOtto Kallirによる"Egon Schiele: Oeuvre-Katalog der Gemälde", 3) 1972年出版のRudolf Leopoldによる"Egon Schiele: Gemälde, Aquarelle, Zeichnungen"およびその英語版, 4) 1990年出版のJane Kallirによる"Egon Schiele: The Complete Works"およびその拡張版, 5) 2017年のTobias G. Natterによる"Egon Schiele: The Complete Paintings, 1909-1918"。最後にカタログ・レゾネを比較し研究することの意義について議論する。

キーワード: エゴン・シーレ, 世紀末ウィーン, カタログ・レゾネ, 枢機卿と尼僧

### 1 はじめに

エゴン・シーレ (Egon Schiele; 1890生-1918没) はオーストリア=ハンガリー二重帝国 (現在のオーストリア) で活躍した20世紀初頭の画家である。シーレは28年という短い生涯で約350点の油彩画と約3000点の素描や水彩画を残した<sup>1)</sup>。作品の多くは自画像や裸婦を中心とした人物画であるが風景画も手がけている。自己表現の情熱は絵画にとどまらず、散文詩やアフォリズムを独特の手書き文字で残している<sup>2,3)</sup>。

シーレは20世紀になってから画家として本格的な活動をスタートしているが、グスタフ・クリムト (Gustav Klimt; 1862-1918), コロマン・モーサ (Koloman Moser; 1868-1918), オットー・ワーグナー (Otto Wagner; 1841-1918) などと並んで世紀末ウィーンやウィーン世紀末芸術の一員として語られることがほとんどである<sup>4)</sup>。作風からシーレは表現主義の一人として論じられることが多い。

シーレは画家として成功を取めたものの、ほどん

くして夭逝した悲劇の天才画家である。1918年3月に開催された第49回ウィーン分離派展では、会場であるセセッションのメインルームのほとんどをシーレの作品が占め、これによってシーレは名実ともに芸術家として大成することとなった。最大の後援者であった美術評論家のアルトゥール・レスラー (Arthur Roessler; 1877-1955) は同年の2月に死去したクリムトを引き合いに出し“クリムトの死後シーレはウィーン美術界の首領になっていた”と語っている<sup>3)</sup>。

シーレはウィーン分離派展での成功を皮切りにしてヨーロッパの美術界を席卷するはずだった。ところが同年10月、猛威を振るっていたスペイン風邪によって死去してしまう。シーレがもつ精神世界の発露はここで途絶えてしまった。

### 2 カタログ・レゾネ

カタログ・レゾネ (Catalog raisonné) とは、ある作家の作品の図版、題名、画材、大きさ、制作年、

サインや日付などの特徴、来歴と現在の所蔵者、書籍や論文での記載、解説文などが網羅的に収録されたものである。シーレにおいては作品についての記録部と著者による解説部を収録した全集の一部として付されていることが多い。一例として、世紀末ウィーンの美術専門家Tobias G. Natterによる"Egon Schiele: The Complete Paintings, 1909-1918"では全608ページのうち454ページ目から593ページ目が"Catalogue of Paintings"と題したカタログ・レゾネになっている<sup>1)</sup>。

シーレ作品のカタログ・レゾネの最も初期のものは1930年にOtto Nirensteinによってまとめられた"Egon Schiele: Persönlichkeit und Werk"である<sup>5)</sup>。その後、およそ30年ごとに新たなカタログ・レゾネが出版されている。収録されている作品はそれぞれ異なっており、通常は収録点数が増えていくが、過去に収録されていた作品が別のカタログ・レゾネには外される場合もある。このことは、そのカタログ・レゾネが作成された時代におけるシーレ作品への考えを反映していること意味し、カタログ・レゾネを時系列的に調査することでシーレ研究の変遷を理解することが可能となる。この試みはすでになされており、最新のカタログ・レゾネを作成したTobias G. Natterによる解説が詳しい。本稿では各カタログ・レゾネの基本的な情報を解説しつつもTobias G. Natterが触れていない情報を詳述したい。これは本稿の第一の目的である。

第二の目的は、カタログ・レゾネ自体が消滅の危機にあるため、その情報を保存することにある。特に1930年出版のOtto Nirensteinによるカタログ・レゾネは原本の入手が困難になっている。これを問題視し、本稿では1930年と1966年出版のカタログ・レゾネを詳述する。そのほかのカタログ・レゾネにおいても、書籍の外観などの物理的特徴など、これまでふれられてこなかった特徴も記載することとする。

### 3 シーレ作品におけるカタログ・レゾネ

6つのカタログ・レゾネが作成されている<sup>1)</sup>。以下

のカタログ・レゾネについて本稿では"カタログNo. 1"というように表記する。

1. 1930年出版, Otto Nirensteinによる"Egon Schiele: Persönlichkeit und Werk"
2. 1966年出版, Otto Kallirによる"Egon Schiele: Oeuvre-Katalog der Gemälde"<sup>6)</sup>
3. 1972年出版, Rudolf Leopoldによる"Egon Schiele: Gemälde, Aquarelle, Zeichnungen"とその英語版とドイツ語版(1973年, 2021年, 2022年出版)<sup>7-10)</sup>
4. 1982年出版, Gianfranco MalafarinaによるClassici Dell'Arteシリーズの"L'opera completa di Schiele"<sup>11)</sup>
5. 1990年出版, Jane Kallirによる"Egon Schiele, the Complete Works: Including a Biography and a Catalogue Raisonné"<sup>12)</sup>および1998年出版のExpanded Edition<sup>13)</sup>
6. 2017年出版, Tobias G. Natterによる"Egon Schiele: The Complete Paintings, 1909-1918"<sup>1)</sup>

カタログNo. 4は美術大全のシリーズの1冊であり、単体でカタログ・レゾネとなっている他のカタログとは性質が異なっている。そのため本稿ではカタログNo. 4を除き、その他のカタログ・レゾネについて特徴を記し解説することとした。なお、カタログNo. 4を除くが数字を繰り返すことなくNo. 5, No. 6と表記した。

#### 3.1 Egon Schiele: Persönlichkeit und Werk

著者 : Otto Nirenstein

出版年 : 1930年

出版社 : Paul Zsolnay Verlag

言語 : ドイツ語

サイズ : 縦30.3×横25.1×厚さ6.2 cm

総ページ数 : 442頁

収録開始年 : 1906

解説 : 印刷部数は500部で、それぞれに通し番号が入れている。厚紙の外箱が付いている。書籍本体はグレーの布地で装丁しており、表紙中央部に

EGON, 改行してSHIELEと金色の箔押し加工で印字されている。頁の用紙は一般的な厚紙でありコート紙ではない。ウィーンのアンティーク商によると発行後から第二次世界大戦にかけて多くの発行部が焼失してしまい、現在ではほとんど入手が不可能な品とのことであった(私信)。2020年前後ではweb上で2~3の販売がみられたが、現在では確認できない。

39ページには展示会に出品した作品名とともに金額が書かれており、当時のシレー作品の扱いやシレーの収入をうかがい知ることができる。例えば1917年のAusstellung Sezession München(オーストリア分離派ミュンヘン展)では次の8作品の記載がある。

- |                        |              |
|------------------------|--------------|
| 1. Mann und Mädchen    | Mk 4000.-    |
| 2. Mutter              | Mk 4000.-    |
| 3. Porträte Herr J. H. | Mk 3000.-    |
| 4. Porträte Herr K. G. | Privatbesitz |
| 5. Haus                | Mk 2000.-    |
| 6. Stadt               | Privatbesitz |
| 7. Sommerlandschaft    | Mk 2000.-    |
| 8. Mühle               | Privatbesitz |

カタログ部では1906年の《Gutshof》<sup>14)</sup>を1番とし179番まで通している。一部、15, 15aなどとして一つの番号に複数の作品が割り当てられていることがあり、作品の情報としては196作品を記載している。アルファベット付きの数字は次の通り。

- 元の数字にaがついたもの：15, 28, 50, 122, 141, 148, 155, 171, 172, I
- 元の数字にa, bがついたもの：48
- 元の数字にa, b, cがついたもの：39, 41

後半部分はTAFELとして通し番号がふられている。TAFEL部は見開きで右側のページに作品の白黒コピーが印刷してあり、左側のページは白紙である。1つのTAFEL(1頁)には複数の作品が印刷してある場合もあるため、作品が176点収録されているのに対してTAFELは139頁である。カタログ部の前に3作品の印刷があるので、本書内に作品は179点収録されていることになる。アルファベット付きの数

字には15aを除いて作品のコピーがない。TAFEL140にはシレーのサインが収録されている。

TAFEL部の頁は現代ではみない独特な作りである。背表紙裏のノリづけ部から1センチほど紙があるが、一度切断されている。TAFELは別の用紙として印刷され、ノリづけ部からの紙を本の土台として両者が薄い布に貼り付けされている。この仕組みによってTAFEL部の頁は湾曲せず、めくりやすいようになっている<sup>15)</sup>。

TAFEL部では以下の8作品がカラー印刷となっており、カラーで印刷した紙が貼り付けられている。カラー印刷の面積は8番が一番大きい。

1. The Self-Seers II (Death and Man) (77番)
2. Autumn Trees (97番)
3. Cardinal and Nun (Caress) (107番)
4. Seen from the South (Large) (126番)
5. Wilted Sunflowers (Autumn Sun II) (143番)
6. Summer Landscape (67番)
7. Reclining Woman (167番)
8. Portrait of Albert Paris Gütersloh (177番)

シレーが作品にサインを書く時、四角のハンコを押したような形を好んで書いている。このサインは非常に特徴的なのだが、本書では最終ページ(TAFEL140)に32種類のサインを掲載している。

このカタログ・レゾネにはOtto Nirensteinが所有していたりアクセスできたりした作品ではない、間接的にのみ見聞きしている作品も収録されている。これらにはアラビア数字の作品群とは別のシリーズとしてローマ数字による通し番号をふっている。番号は48番までだが、1番目がIとIaであるため49作品の情報が記載されていることになる。一例として、XIX番は《Vago Laszlo》についてであり”1913年にミュンヘンで開催されたアートサロン・ゴルトツの展示会カタログに記載”との解説がある<sup>16)</sup>。なお、この作品は本体やコピーが存在しないため、どのような作品だったのかは現在でも不明なままである。

不確かな情報は”？”もしくは”Unbekannt”(不明)と明記している。例えばサインの有無、縦横のサイズには”？”,所有者には”Unbekannt”と記載している。

間接的にはあるもののシーレの死後の比較的早い段階で編纂がなされていることから、Otto Nirensteinは妹、母、友人、Arthur Roesslerなどの仕事仲間から情報を得ることができていて、現在では貴重な情報となっている<sup>1)</sup>。

### 3.2 Egon Schiele: Oeuvre-Katalog der Gemälde

著者 : Otto Kallir

出版年 : 1966年

出版社 : Paul Zsolnay Verlag

言語 : ドイツ語, 一部英語

サイズ : 30.1×24.9×4.3 cm

総ページ数 : 561頁, 後ろに空白ページが3頁つく

収録開始年 : 1906

解説 : グレーの布地で装丁しており, 表紙上部にEGON SHIELEと金色の箔押し加工で印字されている。全体の色味や表紙のデザインなどは1930年版に合わせた作りになっている。特別版が120部印刷されている。特別版には通し番号がついており, half-leatherの装丁がなされている。

著者名はOtto Kallirだが, これはカタログNo. 1の著者であるOtto Nirensteinが1933年に改名したものである<sup>1)</sup>。カタログNo. 1の加筆・修正版として言及されることが多い。前半部分はバイオグラフィー, Ottio BeneshやThomas M. Messerによる寄稿がある。67頁からは“DOKUMENTARISCHES MATERIAL”と題して, 写真, 書類, 手紙などの原本のコピーが収録されている。内容は幼少期のシーレ, 家族, 家の写真と手書きのメモである。このようなコピーはカタログNo. 1ではほとんどみられなかった。一枚だけタイプライターで作成された書類があり, 義理の弟であるアントン・ペシュカ (Anton Peschka) による手書き文字が追記されている。ただし印刷が薄いので判読は難しい。

本書の後半部, 95頁から始まるカタログ部ではドイツ語と英語が併記されるようになった。このことはシーレについての関心が徐々に広まりつつあったことを示唆している。カタログ部は第1部と第2部にわかれ, 第1部では1906年の《Christuskopf》を1番とし, 245番の1918年の《Drei stehende

weibliche Akte (unvollendet), Three Female Nudes Standing (unfinished)》までを収録している。59番は59と59aがあるため, 作品の情報数としては246点である。左ページに作品情報を, 右ページに作品の白黒コピーを掲載している。以下の18点がカラー印刷されている。カラー頁はカラーで印刷した別紙を当該ページに貼り付ける方法をとっている。

1. Portrait of a Boy (“The Rainer Boy”) (106番)<sup>17)</sup>
2. City on the Blue River 1910 (Study) (117番)
3. Self-Portrait with Fingers Spread Apart 1911 (124番)
4. Madonna (134番)
5. Sunflowers (148番)
6. The Artist’s Room in Neulengbach (“My Living Room”) (149番)
7. Autumn Sun (“Sunrise”) (165番)
8. The Bridge (181番)
9. Stein on the Danube II (“The Town of Stein”) (187番)
10. The Small City 1913 II (191番)
11. Death and Maiden (“Man and Girl”) (207番)
12. City 1915 (209番)
13. Portrait of an Old Man (Jhoann Harms) (213番)
14. Mother with Two Children 1917 (223番)
15. Embrace (“Lovers”) (“Mand and Woman II”) (224番)
16. Portrait of the Artist’s Wife, Seated (232番)
17. Portrait of the Painter Paris von Gütersloh (234番)
18. The Family (“Squatting Couple”) (240番)

カタログNo. 1と比べると解説文に改訂が加えられており, 例えば156番の《Kardinal und Nonne (“Liebkosung”), Cardinal and Nun (“Embrace”)》では, “裏面に「オーストリア絵画館の在庫から取り除かれた」のラベル, Dr. F. Novotnyによるサイン, ウィーン, 2月16日, 1957”との情報が追加されている<sup>18)</sup>。

本書でも実在が推測できるものの現物が確認できていない作品を収録している。通し番号がローマ数

字となり、LI (51番)まで記載されている。アルファベットをつけるなどした番号の重複はなくなった。I (1番)は1907年の《Leopold Czihaczek am Klavier, Leopold Czihaczek at the Piano》である。解説文ではカタログNo. 2の7番<sup>19)</sup>と似ているが、失われた絵画であることが記載されている<sup>20)</sup>。これはシーレの次姉、メラニーが伝えた情報であるため信頼性が高いと考えられる。また、実在する記録に基づいたものもあり、II (2番)はウィーンにあるオークションハウスのドロテウムで売却された記録による<sup>21)</sup>。

ローマ数字でのカタログの後に28のサインのコピーがあり、最後に前作であるカタログNo. 1の収録作品と本カタログの収録作品の対応表がある。カタログNo. 1の時点では実物が不明だった作品(ローマ数字の作品)の中で10点の実物が特定されている。この中には《Facade of a House (Windows)》や《Mother with Two Children III》など、今日におけるシーレの代表作が含まれている。

### 3.3 Egon Schiele: Gemälde, Aquarelle, Zeichnungen

著者 : Rudolf Leopold

出版年 : 1972年 (1973年, 2021年, 2022年)

出版社 : Residenz Verlag

言語 : ドイツ語 (英語翻訳版あり)

サイズ : 30.8×30.8×6.1 cm

総ページ数 : 699頁。通し番号は696頁までで、後ろに空白ページが1頁つく

収録開始年 : 1905

解説 : このカタログ・レゾネ以降、本にカラーのカバー(ダストジャケット)がつく。カバーには1911年作の《The Dancer Moa》が印刷されている<sup>22)</sup>。カバーを外すと黒い布地に赤色で“EGON”, 改行して“SHIELE”とサイン状の図がデボス加工で印刷されている。

カタログNo. 2に61点の新規の情報が加えられている。本カタログ・レゾネから資料集としてだけではなくシーレについての解説書としての性質をもつようになった。本カタログ以降、総頁の半分以上はシーレ作品の解説であり、これまでのカタログ部の

みではない構成となっている。

カラーページが紙に直接印刷される様になり、そのページ数が大幅に増加した。そのため彩色してある作品だけでなく、クリーム色の紙の上に鉛筆などの道具で書かれたクロッキーや素描もカラーページに採用している。本カタログには2022年の10月現在、4つのバージョンがある。1972年のドイツ語版、1973年の英語翻訳版、2021年の英語翻訳版の改訂第2版、2022年のドイツ語版である<sup>7-10)</sup>。

数ページの序章があり、シーレの生涯について紹介されたのちに、19頁から“DAS WERK”(作品)と題した前半部が始まる。前半部は年代順の作品とその解説が228点収録されている。左頁に解説文が書かれ、右頁に作品のコピーが印刷されている。ここでは数頁の概説ののちに作品の解説がなされているため、細かなパートに分断されているといえるが、章として分けたりページの先頭に番号をつけたりなどはしていない<sup>23)</sup>。このゆるやかな分離は1973年の英語版においても同様であるが、2021年の英語翻訳改訂第2版(Revised 2nd edition)ではElisabeth Leopoldによる冒頭の解説文にて“Rudolf Leopoldはシーレ作品を5つのスタイルに分けて詳細を解説している”と述べている。この表明に合わせたように改訂第2版では各小パートにタイトルを付けて明示的に分離している<sup>24)</sup>。

513頁からは“KRITISCHES WERKVERZEICHNIS DER GEMÄLDE”(重要な作品一覧)と題した後半部が始まる。605頁にかけて、300番までの通し番号がふられて情報が記載されている。25, 31, 66, 83, 143番はそれぞれ単独の番号とaがつく番号となっており、83aにのみ作品のコピーがある。この重複により収録されている情報数は305となる。606頁から614頁まで“Anhang”(付録)として、間接的資料によって存在が確認されたものを記載している。これまでのカタログ・レゾネと同様、ローマ数字を用いて番号をふっており、IからLVI (56番)までである。例えばIは《MELK AN DER DONAU》と題されており、1952年にドロテウムで競売にかけられたとの解説がある。XXIIとXXVIはそれぞれ単独の番号とaがつく番号があるため合計で58の情報が記載されてい

る。

1973年の英語翻訳版はドイツ語版とカタログ部にて収録している情報数に変わりはない。出版社はPhaidon Press Limitedである。全ての発行部につくのか不明であるが、素描の《Women with a child on her arm》と油彩画の《Two squatting women》を再印刷した別紙が差し込まれている。《Women with a child on her arm》は、書籍内では印刷されていない細かな箇所が別紙では再現されている。

2021年の英語翻訳改訂第2版は著者のRudolf Leopoldが2010年に死去していることもあり、Elisabeth Leopoldが編者となってHirmer Verlagから出版されている。この版では、全面、カラー印刷となったため、絵の具の濃淡、凹凸がつくる陰影といったディテールも観察することができるようになった。特筆すべき点として、カタログ部における図版もカラー印刷となっている点である。2022年のドイツ語版は改訂第2版のドイツ語版である。

Elisabeth Leopoldは冒頭の解説文にて“この本の初版はすぐに完売した。第2版の計画のためにLeopoldが手書きのノートに加筆修正を行っていた。それらは現在の版に組み込まれている”と述べている。文章の加筆修正だけではなく目次の章立ても変更されており、美術書として完成度が高く読みやすい<sup>25)</sup>。カタログ部の前に、シーレが残したスケッチブックについての対応表が追加されている。シーレは20冊程度のスケッチブックを残しており、それはシーレ研究において重要な資料となるのだが、過去の書籍においては通し番号が一致していなかった。この問題を解決するために第2版からスケッチブックの通し番号の対応表が収録されている。

### 3.4 L'opera completa di Schiele

本稿では紹介しない。

### 3.5 Egon Schiele, the Complete Works: Including a Biography and a Catalogue Raisonné

著者 : Jane Kallir

出版年 : 1990年 (1998年)

出版社 : Harry N. Abrams Inc.

言語 : 英語

サイズ : 29.9×24.2×5.3 cm

総ページ数 : 687頁

収録開始年 : 絵画1907, 水彩画1906, スケッチブック1904

解説 : Jane KallirはカタログNo. 1, 2の著者のOttop Kallirの孫である。カラーのカバーがあり、1912年作の《Portrait of a Women》が印刷されている。カバーを外すとオレンジの布地に金色の箔押し加工で二人のシーレがこちらを見ている《Self-Portrait》(1912作)が刻印されている。

本書はバイオグラフィー部とカタログ部に大別される。バイオグラフィー部は246頁ありカラー印刷である。Wolfgang G. Fischerによるエッセイを挟み、カタログ部が257頁から始まる。カタログ部は白黒印刷である。カタログ部は651頁まであり、油彩画を含む作品が334点、間接的資料によって存在が確認されたものをローマ数字の通し番号でLVIII点 (63点)、素描と水彩画を2492点、スケッチブックからの図案を21点、リトグラフと版画を17点、彫刻を4点収録している。これまでにあった15aなどのアルファベット付き通し番号はない。アルファベット付き数字は参照が煩雑であったため良い改良といえる。付録Bにシーレのサインについての解説がある。本書全体を通して3075点ものコピーが収録されていて、その中にはフルカラーのコピーが94点含まれている。

本カタログの最大の特徴は、素描と水彩画の収録数にある。これまでのカタログ・レゾネは絵画(ペインティング)を収録するのみであった。絵画はほとんどが油彩画で構成されており、シーレが存命中に美術展に展示されたものや美術商を仲介して販売されていたものが中心であった。ところが、シーレは非常に多くの素描や水彩画を残していて、それらについてのまとまった記録がなかった。この問題を解決したのが本カタログである。今日では、シーレという芸術家像を考える上で素描と水彩画の作品は無視することができない重要な構成要素となっている。シーレにとっての素描と水彩画は人体の構造を理解するための模写であるがごとく、自分や裸婦を対象として様々な姿勢を描いている。それらに光を

当て約2400点をカタログとして定めた功績は大きい。現在において素描と水彩画についての体系づいた資料は本カタログと1998年の拡張版が際立って詳しい。

1998年に拡張版 (Expanded edition) が出版されている。筆者は本カタログを改訂版ではなく再販であると述べている。653頁までは1990年版と同一のものである。653頁から683頁まで“Supplement to the Catalogue Raisonné”と題した追加部が設けられており、追加部は本文中に紛れることなく区別されている。205項目が追加され、内訳は作品が12点、線画や水彩画を含むドローイングが192点、スケッチが1点である。内容は16歳と17歳のデッサンと初期の絵画が主たるものである。追加作品の3分の1は、Rudolf Leopold, Anton Pechka, Jr., Serge Sabarsky<sup>26)</sup>の所蔵品である。最終的に本カタログでは15～17歳時の作品が約170点に及んでいる。これはシーレの絵画の約半数を占める。

### 3.6 Egon Schiele: The Complete Paintings, 1909-1918

著者 : Tobias G. Natter (編者)

出版年 : 2017年

出版社 : TASCHEN

言語 : 英語

サイズ : 40.5×30.6×6.4 cm (本体)

総ページ数 : 608頁

収録開始年 : 1908

解説 : 本書はTASCHEN社のXXLというサイズで、既出のカタログ・レゾネより大きい。書籍はボール紙の箱に収められており、箱にはプラスチックの簡易的なハンドルがついている。箱にはカタログNo. 3と同様、1911年作の《The Dancer Moa》の肩から上の顔を中心とした部分がカラー印刷されている。同社のXXLはボール紙の箱に収められているが、例えば“Gustav Klimt. The Complete Paintings”<sup>27)</sup>は単色の印刷でプラスチックのハンドルはつかないことから、本書に対するTASCHEN社の強い意気込みを感じる<sup>28)</sup>。

本書にはカラーのカバーがついている。カバーにはやはり《The Dancer Moa》がカラー印刷されてい

る。カバーをはずすと、灰色の布地で装丁がなされ、表紙中央部にシーレのサイン状の図が金色の箔押し加工で印刷されている。カバーはカタログNo. 3になぞらえ、装丁はカタログNo. 1と2になぞらえた様子である。

本文は数ページの序章があり、IからVIIまでのエッセイ部が始まる。エッセイ部は年代順の作品と解説、Rudolf Leopoldの子息であるDiethard Leopoldによる自画像についての解説、散文詩などの文字情報についての解説、バイオグラフィーから構成されている。本書は初めてのフルカラー印刷でありほぼ実寸大に近い作品のコピーもあるため、シーレ作品を“知る”だけでなく“感じる”上でも最高級の美術書である。解説文がまとまって書かれ、そのちに作品のコピーが連続して印刷されるというスタイルを採用している。頁の材質にこだわり、光沢紙に油彩画を印刷し、細かな凹凸がついた画用紙に素描や水彩画を印刷してある。写真やスケッチブックも含めて、ここまでで約380点ものコピーが収録されている。

カタログ部は454頁から始まる。カタログ部には油彩画を中心とした絵画がカラーで収録されており、素描や水彩画は収録されていない。カタログNo. 1～3での収録スタイルに近く、収録している情報量は本カタログが最大である。これまでのカタログで使われていたアラビア数字とローマ数字の2部構成ではなく、アラビア数字のみによる通し番号が使われている。ローマ数字で番号づけられていた存在が不確かな作品も年代順のアラビア数字の連番の中に入れられていて“(not illus.)”の記載がある。カタログ部にはこれまでのカタログではみられないほどの文字量で解説が加えられている。本書では15, 16, 17, 53, 64, 141番の6点の絵画が追加されている。カタログ部以降には、カタログNo. 2, No. 3, No. 5に収録されている作品との対応表とこれまで世界で開催された展示会のリストがある。

なお、本書にはハードカバーの書籍大の40周年サイズ (40th Ed.) がある<sup>29)</sup>。カタログ部が削除されているが、収録している作品はXXLサイズとほぼ同数である (数点、除外されている)。年代順のシーレ

作品を概観する上では、40周年サイズのほうが普通の本の大きさであるため、読みやすく持ち運びに便利である。

#### 4 カタログ・レゾネを比較するという事

各カタログ・レゾネの基本的な情報を解説しつつ、Tobias G. Natterが紹介していない情報を詳述してきた。特にカタログNo. 1とNo. 2については部分的な紹介に限られているものの、カタログ・レゾネへの理解において本稿がひとつのとりかかりになるはずである。

カタログ・レゾネの解説文の中ではカタログを跨いだ比較についても言及した。1930年に最初のカタログ・レゾネが作られて以来、現在までに様々な作品が発見され、照合され、認定されてきた。その時系列を定めているのがカタログ・レゾネであり、それらを比較することでシーレ作品がこの世界に生まれた歴史をとらえることができるのである。

比較することの具体的な例として《Cardinal and Nun (Caress)》をとりあげて紹介したい。本作品はクリムトの《The Kiss》(接吻)へのオマージュ作品として有名であり、シーレの代表作の一つでもある。我が国では《枢機卿と尼僧》という名称で知られている。カタログNo. 2の解説において、裏面に「オーストリア絵画館の在庫から取り除かれた」のラベルがあったことが追記されていると紹介した。これは1930年のカタログNo. 1においては記載されていなかった情報であることから33年間のどこかでラベルが付けられたことになる。2017年のカタログNo. 6の来歴欄(Provenance)によると、本作品は1957年にRudolf Leopoldが交換によって入手したとの記録がある。おそらく、この交換に前後して目録整理の際に付けられたラベルであろう。こういったことはシーレについての書籍には取り上げられることがない。新旧のカタログ・レゾネを見比べることでラベルの存在に気づき、それをめぐる出来事をうかがい知ることができ、シーレ作品をより身近に感じられるのである。

カタログNo. 2において《枢機卿と尼僧》の英題の

括弧内が“Caress”ではなく“Embrace”と記載されている点も特徴的である。カタログNo. 3英語版では英題の次にドイツ語の“liebkosung”が記載されているためどちらともいえないが、カタログNo. 5, No. 6, No. 3の2021年版では“Caress”が当てられている。つまり1966年から1990年までの24年間で《Cardinal and Nun (Embrace)》から《Cardinal and Nun (Caress)》へと変更されたのだ。ここまで調べてみて、いつごろから“Caress”が使われ始めたのかについて興味がわいた。

調査のとりかかりとして、カタログ・レゾネに収録されているLiteratureのリストが有用となる。Literatureには、当該作品を収録している過去の文献が記載されている。この例題ではJane Kallirのオンライン版データベースによると11の出版物に《Cardinal and Nun》が記載もしくは言及されていることがわかった<sup>30)</sup>。

所有している資料をあたってみると、1974年のAlessandra Cominiによる名著“Egon Schiele's Portraits”をもっていた<sup>31)</sup>。ここでは《Cardinal and Nun》としか書かれていない。次は1977年の“みづゑNo. 870”があった<sup>32)</sup>。ここでは《枢機卿と尼僧》という和訳が当てられていた。所有している資料からはこれ以上のことはわからない。残り9点を辿ってゆくといつ頃に“Caress”となったのが判明するはずである。当然、1966年のカタログNo. 2が最初で最後である可能性もある。この調査の結果は別の機会に紹介したい。

作品名の違いは他にもみられる。カタログNo. 1の1番の題名は《Gutshof》であり、同じ著者のカタログNo. 2でも同名である(ここでは2番)。Rudolf LeopoldによるカタログNo. 3では《HOF IN KLOSTERNEUBURG》(4番)となっており、Jane KallirによるカタログNo. 5では《Der Schmiedhof in Klosterneuburg》(6番)である。似ている様で微妙に違っている。なにが重大な理由があるのではと考えると、単に、シーレが確かな題名をつけていないか、題名が全く伝わっていないために三者三様の題名を用いているのだろう。これはシーレ研究史に残る大きな発見ではなく、小さなズレを見出

したに過ぎないだろう。しかし、単純にこのままでは不便である。これを解消するような、作品の名称の差異についての対照表があると便利である。実際、スケッチブックの番号やカタログ・レゾネ間の番号づけの対照表が作成されており、それらは非常に役に立っている。名称の差異を照合することで研究や調査が容易となりシーレ研究が発展するかもしれない。これはシーレ研究者にとって利益につながるであろうし、一つの研究テーマとして十分な価値があるはずである。

## 5 私の場合

研究テーマたりうるかという観点ではなく、私個人が感じている楽しさについて述べたい。一般書であれ専門書であれ書籍であるならば、筆者が伝えた物語や筆者が持っている考え方について誘導的に展開されることが多い。一方、カタログ・レゾネの特にカタログ部は、情報の集合体であって何か主張めいたものを持っているわけではない。作成時に確認できる状態を過不足なく記載するがゆえに物語性に欠けるため、一人の読者としては面白いと感じることは少ないだろう。しかし、筆者の主観が入っていないことが幸いし、調査者としてはその世界を自分の考えに従って自由に探検することができる。私はこの点においてカタログ・レゾネに向き合う意義をみいだしている。

## Appendix A

本文中に登場する作品名を記す。順に英語、ドイツ語。詳細は引用文献と注記の14を参照のこと。

- The Self-Seers II (Death and Man), Die Selbstseher II (Tod und Mann)
- Autumn Trees, Herbstbäume
- Cardinal and Nun (Caress), Kardinal und Nonne (Liebkosung)
- Stein on the Danube, Seen from the South (Large), Stein an der Donau, vom Süden gesehen (gross)
- Wilted Sunflowers (Autumn Sun II), Welke Sonnenblumen (Herbstsonne II),
- Summer Landscape, Sommerlandschaft
- Reclining Woman, Liegende Frau
- Portrait of Albert Paris Gütersloh, Bildnis Albert Paris Gütersloh
- Three Female Nudes Standing (unfinished), Drei stehende weibliche Akte (unvollendet)
- Portrait of a Boy ("The Rainer Boy"), Bildnis Eines Knaben ("Rainerbub")
- City on the Blue River 1910 (Study), Stand am blauen Fluß 1910 (Entwurf)
- Self-Portrait with Fingers Spread Apart 1911, Selbstbildnis mit gespreizten Fingern 1911
- Sunflowers, Sonnenblumen
- The Artist's Room in Neulengbach ("My Living Room"), Das Zimmer des Künstlers in Neulengbach („Mein Wohnzimmer")
- Autumn Sun ("Sunrise"), Herbstsonne ("Sonnenaufgang")
- The Bridge, Die Brücke
- Stein on the Danube II ("The Town of Stein"), Stein an der Donau II ("Stadt Stein")
- The Small City 1913 II, Die Kleine Stadt 1913 II
- Death and Maiden ("Man and Girl"), Tod und Mädchen ("Mann und Mädchen")
- City 1915, Stadtbild 1915
- Portrait of an Old Man (Jhoann Harms), Bildnis eines alten Mannes (Johann Harms)
- Mother with Two Children 1917, Mutter mit zwei Kindern 1917
- Embrace ("Lovers") ("Mand and Woman II"), Umarmung ("Liebespaar") ("Mann und Frau II")
- Portrait of the Artist's Wife, Seated, Bildnis der Frau des Künstlers, sitzend
- Portrait of the Painter Paris von Gütersloh, Bildnis des Malers Paris von Gütersloh
- The Family ("Squatting Couple"), Die Fammilie ("Kauerndes Menschenpaar")
- Facade of a House (Windows), Hauswand (Fenster)
- Mother with Two Children III, Mutter mit zwei

Kindern III  
• The Kiss, Der Kuss

## Appendix B

問い合わせ・連絡先：ymatsuda@ishikawa-nu.ac.jp

## 引用文献と注記

- 1 Natter, T. G. (Eds.). (2017). *Egon Schiele: The Complete Paintings, 1909-1918*. TASCHEN.
- 2 Leopold, E. (Eds.). (2008). *Egon Schiele: Poems and Letters 1910-1912*. Prestel Verlag.
- 3 大久保 寛二 (2004). *エーゴン・シーレ 日記と手紙*. 白水社
- 4 “Vienna around 1900”という表現もある。“around”とすることで20世紀初頭も含めることになるので、言葉としてはこちらの方が正しいのだが、日本語の“世紀末”という表現が良くこの時代のウィーンを表現していると感じられる。
- 5 Nierenstein, O. (1930). *Egon Schiele: Persönlichkeit und Werk*. Paul Zsolnay Verlag.
- 6 Kallir, O. (1966). *Egon Schiele: Oeuvre-Katalog der Gemälde*. Paul Zsolnay Verlag.
- 7 Leopold, R. (1972). *Egon Schiele: Gemälde, Aquarelle, Zeichnungen*. Residenz Verlag.
- 8 Leopold, R. (1973). *Egon Schiele: Paintings, Watercolors, Drawings*. Phaidon Press.
- 9 Leopold, E. (Eds.). (2021). *Egon Schiele: Paintings, Watercolors, Drawings*. Himer verlag.
- 10 Leopold, E. (Eds.). (2022). *Egon Schiele: Gemälde, Aquarelle, Zeichnungen*. Himer verlag.
- 11 Malafarina G. (Eds.). (1982). *L'opera completa di Schiele. Classici dell'Arte. Biblioteca Universale del Arti Figurative. 105*. Rizzoli.
- 12 Kallir, J. (1990). *Egon Schiele, the Complete Works: Including a Biography and a Catalogue Raisonné*. Harry N. Abrams.
- 13 Kallir, J. (1998). *Egon Schiele: The Complete Works (Expanded ed.)*. Harry N. Abrams.
- 14 本文中での作品名について、現在では基本的に元のドイツ語名と英語名がついている。本稿を参考にしてwebなどで検索する際の利便性を考慮し、本文中では英語名を優先して記すこととした。ただし、カタログNo. 1の時点ではドイツ語名しかなく、かつ、後世において改題されている作品がある。この場合は当時の表記を優先し、ドイツ語名のみとしている。また、カタログNo. 1では書籍内ではドイツ語名の表記しかないが、本稿の本文中では英語名のみ表記となっているので注意してほしい。ドイツ語名と英語名の対応はAppendixを参照。なお、英語版のカタログでは作品名の表記が英語版のみである。この場合のドイツ語名は記載していない。
- 15 これは私が所有しているもののみに見られるものなのかは不明であるが、切断された土台側の幅が揃っていることから、購入後に入手した人の手によって全て作られたとは考えにくい。
- 16 原文はつぎのとおり。Erwähnt im Ausstellungskatalog des Kunstsalons Goltz, München 1913.
- 17 原文は「Bildnis Eines Knaben (“Rainerbub”) (改行) Portrait of a Boy (“The Rainer Boy”)」というように1行目にドイツ語名、2行目に英語名の順で作品名を記載している。
- 18 原文は次の通り。Auf der Rückseite ein Schild : „Aus dem Inventar der Österreichischen Galerie gestrichen. (改行) i. V. Dr. F. Novotny (改行) Wien, 16, Febr, 1957.” (改行) On the reverse side, a label: “Removed from the inventory of the Österreichischen Galerie. (改行) i. V. Dr. F. Novotny (改行) Wien, 16, Febr, 1957.”
- 19 「Leopold Czihaczek at the Piano (Sketch) , Leopold Czihaczek am Klavier (Skizze)」のこと。

- 20 原文は次の通り. Verschollenes Bild mit ähnlicher Darstellung wie die Skizze, No. 7, laut Angabe der Schwester des Künstlers, Melanie Schuster. (改行) Lost painting, similar to the sketch of the same subject, No. 7, according to information received from the artist's sister, Melanie Schuster.
- 21 原文は次の通り. Verkauft durch / Sold by: (改行) Dorotheum Wien. Auktion / Auction (改行) 5. VII. 1955; No. 124
- 22 このカタログ・レゾネ以降, web上に写真があげられているのを目にするし, 古書として販売もしているので比較的入手しやすい.
- 23 各小パートの開始と終了ページ数は次の通り. 1, p. 19-74, 2, p. 75-153, 3, p. 154-251, 4, p. 252-421, 5, p. 422-494.
- 24 各小パートの分量は1972年版とほぼ同様. タイトルは次の通り. 1, The Early Years: 1906-1909, 2, Departure and Provocation: 1910, 3, Melancholy and Lyricism: 1911-1912, 4, Consolidation of Form: 1913-1916, 5, Supple Line and Painterly Perfection: 1917-1918.
- 25 1970年代版は古書という感じであるが, 2021年代版はアート系書籍といった感じである.
- 26 Serge Sabarskyはシーレ作品の主要な取り扱い業者(ディーラー)であり, 1960年代から80年代にかけて活躍した. 1996年死去.
- 27 Natter, T. G. (Eds.). (2012). *Gustav Klimt: The Complete Paintings*. TASCHEN.
- 28 XXLサイズを他に2冊所有しているが, いずれの外箱も単色のみの印刷である.
- 29 Natter, T. G. (Eds.). (2020). *Egon Schiele: The Paintings. 40<sup>th</sup> Ed.* TASCHEN.
- 30 Jane Kallirによるオンライン版データベースもカタログ・レゾネであるが, 他のカタログ・レゾネと性質が大きく異なるため, 本稿では紹介していない. データベースの文献情報は次の通り. Kallir, J. (2018). *Egon Schiele Online*. Kallir Research Institute Retrieved from <http://egonschieleonline.org/>
- 31 Comini, A. (1974). *Egon Schiele's Portraits*. University of California Press.
- 32 池内 紀(1977). エゴン・シーレの世界: すべては生きながら死ぬ, *みづゑ*. 870, p. 45-51.

## Catalog raisonné of Egon Schiele's works

Yukihisa MATSUDA

### Abstract

Egon Schiele (b. 1890 - d. 1918) was an Expressionist painter of the early 20th century, active in the Austro-Hungarian Empire. There have been several catalogues raisonnés of Schiele's works. In this study, I review the following catalogues raisonnés and add information that has not been presented in previous studies: 1) "Egon Schiele: Persönlichkeit und Werk" by Otto Nierenstein, published in 1930, 2) "Egon Schiele: Oeuvre-Katalog der Gemälde" by Otto Kallir published in 1966, 3) "Egon Schiele: Gemälde, Aquarelle, Zeichnungen" by Rudolf Leopold published in 1972 and its English editions, 4) "Egon Schiele, the Complete Works: Including a Biography and a Catalogue Raisonné." by Jane Kallir published in 1990 and its expanded edition published in 1998, 5) "Egon Schiele: The Complete Paintings, 1909-1918" by Tobias G. Natter published in 2017. Finally, the significance of comparing and studying catalog raisonné will be discussed.

Keywords : Egon Schiele, Vienna around 1900, catalogs raisonnés, Cardinal and Nun

DOI : 10.15096 / UrbanManagement.1508